

ビワがんしゅ病抵抗性のビワ品種間差異

森 田 昭

(長崎県果樹試験場)

既存のビワ品種、系統の本病に対する抵抗性程度を菌接種とほ場での自然感染によって検定した。

1. 菌接種検定：本病菌系統A, B, Cの代表菌を用い、枝伸長期に米国式牛痘接種器を各菌の菌液 10^6 cells/ml に侵して接種し、その後24時間温室状態に保った。葉接種は成葉の60%伸長時に多針法でB系統菌を用い、枝接種と同様な方法で行った。供試材料は各品種3~4年樹、3鉢を用い、1鉢3枝に接種した。調査は枝では接種6ヵ月後に、葉は接種1ヵ月後に行った。結果は第1表のとおりである。

2. ほ場検定：6年生17品種、2年生4品種の無病菌

を供試し、本病の防除をしなかった。各部位30個体を調査した。結果は第1表のとおりである。

まとめ：接種、ほ場検定の結果は大體一致し、シャンパンのみがいずれも無発病であった。AおよびB系統菌に対して茂木品種群は発病度の高い品種が多く、他の品種群では発病度の低い品種が多い、特にこの関係はB系統菌に対してより明瞭であった。C系統菌に対してはシャンパン、*E. detlexa*を除き全品種が発病し、その程度も高かった。このように、本菌とビワ品種の間には密接な関係があり、判別品種を明らかにすることが可能ではないかと思われる。

第1表 ビワがんしゅ病抵抗性のビワ品種間差異

品種群	品 種	菌 接 種 検 定				ほ 場 検 定				
		枝 の 発 病 度		病 率	系 統	樹 体 各 部 位 の 発 病 率				
		A	B			C	B	枝	葉	芽
茂 木	本 田 早 生	73.3	80.0	90.0	45.2	10.0	2.6	34.0	—	14.3
	森 尾 早 生	70.0	46.7	80.0	44.0	17.5	0.6	42.5	—	16.8
	R — 53	60.0	70.0	50.0	41.5	—	—	—	—	—
	長 崎 早 生	73.3	80.0	70.0	43.3	10.4	14.6	10.8	4.0	9.3
	野 母 崎 早 生 系	43.3	0	100.0	—	○20.0	5.8	41.7	—	—
	三 和 大 果 系	80.0	43.3	70.0	—	○16.7	1.1	24.4	—	—
	茂 木	100.0	50.0	60.0	44.2	12.5	14.6	10.8	18.1	13.3
	大 津 正 雲	100.0	100.0	100.0	46.0	○ 8.3	10.8	16.6	—	—
橘	室 戸 早 生	30.0	3.3	100.0	2.3	0	0.1	0	0	0
	橘	33.3	3.3	50.0	6.7	0	0.6	0	0	0.9
田 中	大 瑞 房	13.3	0	50.0	0	0	0	0	0	0
	戸 穂 越	70.3	3.3	90.0	0	○ 0	0	0	—	—
	野 島 早 生	13.3	0	60.0	0	0	0	2.5	0	0
	田 池 中 田	0	0	50.0	0	4.2	0.7	0.8	1.7	0
	池 森 本	13.3	0	90.0	0	19.3	0.1	1.7	11.5	5.7
	森 本	13.3	0	70.0	—	0	0	1.1	0	0
そ の 他	倉 田 早 生	40.0	30.0	70.0	5.3	18.3	1.2	26.7	28.8	31.8
	倉 田 早 生	30.0	13.3	100.0	32.5	6.9	1.7	13.8	19.4	0
	福 原 早 生	16.7	0	30.0	0	0	1.9	0	—	—
	福 聚 院	—	—	—	—	0	0	0	0	0
	土 肥	—	—	—	—	0	0.7	0.7	0	0
	広 東	30.0	0	30.0	0	0.8	0.6	0	0	0
	ゴールドナゲット	3.3	0	—	—	—	—	—	—	—
	シャンパン	0	0	0	0	○ 0	0	0	0	0
<i>E. detlexa</i> .	0	0	0	0	—	—	—	—	—	

注) ほ場検定の○は2年生他は6年生、—は未調査、菌接種検定の発病度は九病虫研究会報17: 1 (1971) 参照